

振り込め詐欺の被害が後を絶たない中、金融機関の職員らの機転で、1500万円を振り込もうとしていた老夫婦が被害を免れた。3時間にわたる説得をした但陽信用金

庫神野支店(加古川市神野町西条)に16日、加古川署長から感謝状が贈られた。同署などによると、経緯はこうだ。(井上 駿)

1500万円振り込め詐欺防ぐ

信金さんお手柄

「ロシアの国営石油企業の社債を買う権利の案内が届いていませんか」。加古川市の無職男性(70)宅に10月末、信託銀行員を名乗る男から電話があった。数日後、実在するロシアの企業の名前でパンフレットが届く。掲載されていたフリーダイヤルに男性が電話すると、日本支店の社員を名乗る男に「兵庫県内に新会社を設立する。社債を買いませんか」と勧められた。「ロシア政府と日本政策投資銀行の保証付き」「買う権利があるのは100人だけ」。

但陽・神野支店 警察署長感謝状

「ロシアの国営石油企業の社債を買う権利の案内が届いていませんか」。加古川市の無職男性(70)宅に10月末、信託銀行員を名乗る男から電話があった。数日後、実在するロシアの企業の名前でパンフレットが届く。掲載されていたフリーダイヤルに男性が電話すると、日本支店の社員を名乗る男に「兵庫県内に新会社を設立する。社債を買いませんか」と勧められた。「ロシア政府と日本政策投資銀行の保証付き」「買う権利があるのは100人だけ」。

3時間にわたり説得

商社などに電話確認

その後、商社や証券会社と称して勧誘の電話が相次ぐ。男性は妻とも相談して1500万円分の購入を決める。電話の男は、金融機関に「家のリフォームをする」と言えばスムーズに送金できると指示。11月10日午前、夫妻は同支店を訪ねる。男性は、窓口担当の職員美野響子さん(24)に定期口座を解約し、横浜の口座に700万円振り込むよう頼む。美野さんは不審に思い、上司に相談。藤原茂一支店長(41)が男性から「本当は社債を買う」と聞き出した。

藤原支店長は、男性が持ち込んだ資料に載っている日本政策投資銀行や商社に電話する。いずれの返事も「そんな話はない」。最後は消費者相談の公的窓口で確認。計3時間わたる説得の末に夫妻はようやく納得する。支店長は「不審に思うことがあれば振り込む前に相談を」と話していた。



署長感謝状を受け取る但陽信用金庫の藤原茂一支店長(中央)ら=加古川署

藤原支店長は、男性が持ち込んだ資料に載っている日本政策投資銀行や商社に電話する。いずれの返事も「そんな話はない」。最後は消費者相談の公的窓口で確認。計3時間わたる説得の末に夫妻はようやく納得する。支店長は「不審に思うことがあれば振り込む前に相談を」と話していた。